

共に

塩尻市こども教育部男女共同参画・人権課

塩尻市大門七番町4番3号

TEL：(0263) 52-0280 内線3151

FAX：(0263) 54-2705

Eメールアドレス：kyoudou@city.shiojiri.lg.jp



特集

女性が働くということ ～輝く SHIOJIRI の女性たち～

男女共同参画都市宣言

わたくしたちは、人間としての自立と平等を基本理念として、男女があらゆる分野にともに参画し、ともに築く生活文化の熟成された田園都市を目指し、ここに「男女共同参画都市」を宣言します。

- 1 男女がともに、一人ひとりの個性と能力を発揮し、生き生きと充実した人生が送れる塩尻市をつくります。
- 1 男女がともに、多様な生き方を認め合う、心豊かな塩尻市をつくります。
- 1 男女がともに、互いの性を尊重し、支え合うやさしい塩尻市をつくります。
- 1 男女がともに、地球市民として、地域から世界へ友情と平和の輪を広げる塩尻市をつくります。

平成6年9月16日制定 塩尻市

～すてきにワーク。

産・育休1年で職場復帰を果たした 小林深雪さん



小林 深雪 さん (36歳)

勤務先：(株) オフィス P'dj

(所在地) 塩尻市市民交流センター 503号

お仕事：Web デザイン制作・ソフトウェア開発

ご家族：夫(会社員)、長女(2歳)、夫の両親(農業)と同居

松本市岡田在住

Q：どうして今の仕事に就いたのですか。

A：デザイン関係の学校で勉強して入社、今年で8年になりますが、今の仕事に興味があり、女性に向いていると思います。

Q：女性に働きやすい職場ですか。

A：産育休後の短時間勤務制度の利用で、9時から16時まで働いています。休日は土日と祝日がありますので、家庭と仕事を切り替えることができます。

Q：家族はどんなことに協力してくれますか。

A：保育園の送り迎えは私がします。夫は勤めがありますが、家ではお風呂に入れたり、子どもの相手をしてくれたりします。両親は農業が忙しいのですが私の勤めに理解があり、食事の用意や片づけをしてくれます。

Q：生活と仕事のバランスはどのようにとっていますか。

A：仕事は会社で済ませ、なるべく家には持ち帰りません。家では家事や子どもとふれ合う時間を大切に、子どもが寝た後で、新しい技術の勉強などをするようにしています。

Q：将来の夢はなんですか。

A：今は目の前のことを夢中でやっていますが、この会社ですっと働きたいと思っています。



吉村 和道さん (40歳)

(株) オフィス P'dj 社長

「社員の子育て応援宣言」を長野県に登録

「職場いきいきアドバンスカンパニー」として長野県が認証

今まで働いた技術やノウハウを生かして産育休をとった後も仕事に復帰するのは、会社にとってもメリットは大きいです。

女性が長く働き続けるためには会社全体で残業や休日出勤を減らし、産育休者が担当していた業務はみんなが協力していくことが大事だと思います。産育休の取得はこの会社で小林さんが第1号ですが、当社は社員12名のうち6名が女性ですので、これからも続くと予想されます。みんなで助け合ってやっていきたいと思っています。

インタビュアー：加藤智子 赤羽すえみ 青木慶子 川上博昭

訪問日：平成28年8月19日(金)

ライフ・バランス～

障がいのあるお子さんを介護しながら働き続ける赤津秀美さん



赤津 秀美 さん（48歳）

勤務先：NPO 法人マシュマロ
（所在地）塩尻市大門71番地1

お仕事：障がい者の自立支援事業所副理事長、サービス管理責任者

ご家族：長男（27歳 5歳の時に髄膜炎となり以降重度障がいを患い、
在宅で介護）

長女（19歳 看護学校生 愛知県在住）

Q：どんなお仕事ですか。

A：知的障がい者の方が社会で働くことができるための訓練をしています。

半年に一回利用者さん本人の希望を聞いて計画を立て、就労できるための訓練と共に賃金アップにつながる仕事を探す工夫をしています。野外の仕事として地域の農業を絶やさないための協力で、井筒ワインの葡萄園の草むしり等もしています。

喫茶マシュマロは、接客等を通じて社会的マナーを身に着ける場所として設置しています

Q：今の仕事を決めた理由はなんですか。

A：長男の回復を願っていましたが障がい者となり、成長していく過程で福祉の方が寄り添った支援をしてくださり、私も将来は人を助ける福祉関係の仕事をしたと思いました。まず訪問看護ヘルパーになり、資格を取ってこの仕事に就くことができました。

Q：今の仕事で女性としてのやりにくさがありますか？

A：やりにくさは感じていません。むしろ女性なので通所者一人一人の個性を受け止めて、それに応じた接し方ができています。女性だからこそ母親のような気持で、年齢幅は広いですが純粋無垢な利用者のみなさんに寄り添うことができています。

Q：女性が働きやすい社会、職場になるために必要な事は何ですか？

A：働く女性の立場を理解していただく事が重要だと思います。自分の場合は障がいの子供を抱えていることを理解していただいています。

Q：生活と仕事のバランスはどのようにとっていますか。

A：最初は障がい者の家族がいる状況を受け入れるのが難しかったのですが、今はそれを認めてこのように発信する事ができているので、逃げずに社会と関わる事はバランスをたもつ上で大切だと思います。



販売しているクッキー

Q：ストレスの発散法を教えてください。

A：子供を在宅でみているので、月1回のショートステイで子供を預けて、友人との交流で解消しています。土日は施設は休みですが、施設で作った野菜やクッキーの販売も楽しみの1つになっています。

Q：将来の夢はなんですか。

A：在宅の方が色々な経験をさせてあげられるので今は家で子供をみっていますが、自分の健康のことを考えるといずれは施設に入れたいと思っています。自分の経験を発信することによって、女性も働きやすくなるように仲間を増やしていきたいと思っています。

長野県イクボス・温かボス創出プロジェクトのご案内

イクボス・温かボス宣言」しませんか。

長野県では長野県連合婦人会が発案した「長野県イクボス・温かボス創出プロジェクト」の取り組みとして「イクボス・温かボス宣言」を推進しています。

「イクボス・温かボス宣言」とは、企業・行政等の事業者、管理職等が従業員や部下の仕事と子育て・介護の両立支援をイクボス・温かボス宣言として宣言し、職場におけるワーク・ライフ・バランスや多様な働き方の推進等に取り組みものです。男性も女性も安心して働くことができ、若い世代の結婚と出産、子育ての希望が実現できる「安心介護と子育ての社会づくり」につながります。

少子化で労働人口が減りつつある中、子育て世代の出産育児時の離職や、40〜50代の介護離職者をいかに防ぐかは、企業等の喫緊の課題です。

「男女を問わずすべて」の労働者の育児、介護、その他私生活などスタッフの生活事情全般への理解を示し、決められた時間内に緊張感を持って仕事をすることで生産性を向上し、個人も組織もみんながハッピーになる環境をつくる「イクボス・温かボス」の存在が大切になってきています。

(男女共同参画・人権課)



イクボス・温(あった)かボスとは…

従業員や部下の育児参加や介護に理解があり、積極的に支援する経営者や上司のこと

男女共同参画 おすすめBOOK

坂野惇子 子ども服にこめた「愛」と「希望」



青山誠 著
『歴史読本』編集部 編
KADOKAWA 出版

こども服「ファミリア」の創始者、坂野惇子(ばんの あつこ)さんは、秋から始まったNHK連続テレビ小説の実在モデル。ママの視点にこだわった本当に「良い」ベビー・子供服作り。神戸から東京そして世界へと羽ばたいた名経営者の生涯に迫る。

100歳になってわかったこと



篠田 桃紅 著
幻冬舎 出版

100歳を越えてもなお美術家として活躍する篠田桃紅。生きていく限り「人生は日々進化」と語り、時には優しく時には厳しく人生の生き方、楽しみ方を伝授する。己の人生を己の足で歩き「生きることをもっと楽しみたい」と思わせてくれる一冊。

小林カツ代と栗原はるみ



阿古 真理 著
新潮社 出版

テレビや雑誌などでレシピを紹介し、家庭の食卓をリードしてきた料理研究家たち。彼女・花繚乱の料理研究家を分析すれば、家庭料理や女性の生き方の変遷が見えてくる。本邦初の料理研究家論。

三冊とも塩尻市立図書館で借りられます。

編集後記

赤津さんは、本当にエネルギーギッシュな方で、自分の経験をありのままに話してくださいました。他の障がいを持つ家族の方に積極的に社会に出てほしいと語る、優しさのあふれる受け答えの中に、障がい者への愛と「何とか幸福になってほしい」という熱意が伝わってきました。青木 慶子

産育休後の職場復帰についての取材で意欲があれば社会環境はかなり整ってきているように思いました。上司や職場の理解があれば仕事を熟知している女性の復帰は会社にとっても大きなメリットです。「いきいき子育て宣言」「女性活躍推進法」など言葉だけにならないよう見守りたいと思います。赤羽 すえみ

子育てをしながら働く女性のほとんどはパート勤務であり、正規職員として産育休をとって復帰し働き続けるには、社会全体で支えるきめ細かい環境の整備が必要不可欠と感しました。継続して女性が活躍できる環境を整えば、少子化にも歯止めがかかるのではないかと思います。加藤 智子

今回紹介させていただいたお二人は、職場も生活環境も違いますが、共通して言えることは、女性が生きがいを持って働くには本人の意思と共に家族や職場の協力理解が不可欠だということです。女性が自分の能力を生かし更に生きがいを持って働ける職場が増えることを願います。

川上 博昭